

第 2 回平成29年 3 月27日那須雪崩事故検証委員会の結果について

H29. 6.7 教育委員会事務局総務課

1 日 時

平成29年 6 月 3 日（土）13時～16時15分

2 場 所

栃木県公館中会議室

3 出席者

戸田委員長、外委員 8 名・協力委員 4 名

4 議 事

(1) 会議等の公開・非公開の決定について

- ・ 議事については、「(2) 現地調査及び聞き取り調査の結果について」は公開とし、「(3) 雪崩事故に関する事実と課題の整理について」及び「(4) その他」は非公開とすることを決定した。
- ・ また、会議資料については、全てを公開とすることを決定した。

(2) 現地調査及び聞き取り調査の結果について【公開】

5 月14日（日）及び15日（月）に実施した現地調査及び関係者からの聞き取り調査の結果について、戸田委員長、岸委員、西村副委員長及び大西委員が報告した。

① 現地調査結果について（戸田委員長）

- ・ 大田原高校では、緊急時（命にかかわるもの）は直ぐに教頭に報告することとしていた。
- ・ 顧問が負傷者等の状況を把握できず、学校からの問い合わせに回答出来ないなど、学校に情報が集まらなかったため、遺族等に適切な情報提供が出来なかった。

② 高体連の体制及び春山登山講習会の運営・実施状況について（岸委員）

- ・ 講習会は、前年度の専門委員会で期日・場所を決定し、当該年度の11月の専門委員会でもコース等の詳細を決定した。

③ 前日及び当日の気象状況、積雪、雪崩発生の状況等について（西村副委員長）

- ・ 事故翌日に実施した調査によると、崩れやすい雪の層が20数cm下に存在した。100m程度上部から雪崩が発生したと想定される。

④ 講習会参加者の事故当日の状況や動き、事故発生時の救助や対応について（大西委員）

- ・ 講師3人で相談し、スキー場周辺での雪上歩行訓練に変更することを決定した。訓練場所は、スキー場ゲレンデと樹林帯を想定していた。
- ・ スキー場の第2・第3ゲレンデ奥は雪崩の危険性がある旨、出発前にスキー場の案内板を用いて説明し、訓練のルートは、各班がそれぞれに決定した。
- ・ 1班は、生徒から「先に進みたい」と言われ、樹林帯を抜けた天狗の鼻下方の岩を目指し前進した。

⑤ 過去の事故発生状況等について（戸田委員長）

- ・ 7年前の講習会で発生した雪崩は、郭公沢最上部において、ロープを張ろうとしていた際に表層10cm程度が流れ出した。  
下方で休憩していた生徒が巻き込まれ、50～60m程度流されたが、怪我人はいなかった。完全に埋まった生徒もいなかった。  
この情報は、専門部で共有し、それ以降、当該地では訓練を実施していないが、高体連や県教委へは報告されなかった。
- ・ なお、これに限らず、過去の講習会においても、終了後に報告書が作成されていない。

(3) 雪崩事故に関する事実と課題の整理について【非公開】

これまでの議論や現地調査等の結果を踏まえ、雪崩事故に関する事実や課題について、委員会で意見交換を行い、整理した。

主な内容は、次のとおり。

- ・ 今回の雪崩が自然発生か人が踏み入れたことによるものかは判断不可能
- ・ 引率教員が、担当する班の生徒の連絡先を把握していない
- ・ 引率教員に冬山（雪山）に関する知見が不足。資質向上が必要
- ・ 上に行きたがる者を止めるための仕組みが必要。そのためには、講習目的の明確化等が必要 など

(4) その他【非公開】

6月末の第一次報告書の取りまとめに向けて、報告書の作成について、打合せを行った。